

「しつけ」がわが子の学力を 左右する…ってほんと!?



躰（子供への声掛け）が、学力を大きく左右させるそうなのです。

発達心理学が専門の内田伸子先生は、『躰や声掛けの仕方が子供にどのような影響を与えるか』についての、興味深い調査をされました。

その調査内容は一体どのようなものだったのでしょうか？

内田先生が仰るには、躰には大きく分けて二つの種類があるのだそうです・・・。

あなたの躰はどちらのタイプ??

先述の内田先生いわく、躰には以下の二つがあるそうです。

- ・ 共有型しつけ
→子どもの気持ちを中心に考え、子どもとのふれあいや会話を大切にし、楽しい経験を子どもと共有しようとするしつけスタイル。
- ・ 強制型しつけ
→大人中心で、言いつけ通りに子どもを従わせようとする、しつけスタイル。罰を与えたり、力によるしつけを行ったりすることもある。

内田先生は、似たような家庭環境で、躰スタイルだけが違うとどうなるのかを調べるために、「年収 900 万円以上の高所得層で、母親が四年制大学あるいは大学院を卒業し、現在は専業主婦をしている家庭の中から、共有型しつけと強制型しつけの極端な例を 30 組ずつ計 60 世帯選び、親子のやりとりを観察する」

というユニークな調査を実施しました。調査をしていると、図形を組み合わせるブロックパズルの課題で、こんな違いが見られました。

共有型しつけを行っているお母さんは、お子さんをじっと見守っています。

一方、強制型しつけを行っているお母さんは子どもがパズルをやろうとすると、『そっちは難しいわよ。こっちからにきなさい』『左右の色を同じにしたらキレイでしょう』などと、何かと口を出し、指図します。

「のちにこの子どもたちの学力を調査したところ、共有型しつけを受けている子どもは語彙得点、リテラシー（読み書き能力）ともに高く、強制型しつけを受けている子どもは語彙得点もリテラシーも低かったのです。」

と、内田先生は話します。

なぜ、しつけスタイルが学力に影響するのでしょうか。

「子どもの学力を高めるためには、お父さんやお母さん、教育者たちが、子どもの主体性を大事にするかかわり方をすることが重要です。

共有型しつけをしている親は、**こどもに考える余地を与える援助的なサポートが多く、子どもをよく褒め、子どもに合わせて柔軟な対応をしていました。そうした親のもとで、子どもは伸び伸びと活動していました。自分から興味を持ち、楽しいと感じているときは脳の働きが活発になります。**

強制型しつけは逆に、子どもに考える余地を与えない、指示的・独断的な介入が多い、しかも過度に介入する、情緒的なサポートが少ない、褒め言葉が少ないという特徴がありました。

こうした親のもとでは、子どもは主体的に行動することができず、親の顔色を見ながらおどおどと行動していました

これでは脳の働きが低下するうえ、言われたことしかできない「指示待ち族」になる危険性があります。

しつけスタイルは母親の思いひとつで変えることができます。子どもが伸びる共有型しつけを心がけていきたいですね。」

生活面・態度面の躰は、子供の自主性に任せずしっかりと！

お受験のプロと言われているある教育関係者も、「学力に繋がる最大の武器は家庭での躰だ」と著書で書かれていました。

必ずご家庭で指導頂きたいのが「時間厳守」と「整理整頓」の二つです。

この二つが守れない子は絶対に良い成績は取れません。実際に中学生でもテストの成績的には5段階評価の「5」が付いて良い点数なのに「3」が付いている子がいました。

聞くと、提出物の期限が遅れた、提出物をなくした、という理由が判明。この生徒には「**中学ではテストの点数以外の評価も大きい。そんなことしてたらせっかくいい点を取っても成績は悪くて、勉強の頑張り甲斐がないでしょ？次回からは絶対に提出期限を守ること！提出すべきものをなくすなんてもってのほか！！！！**」と厳しく指導しました・・・。

「**時間厳守**」と「**整理整頓**」はいくら塾で口うるさく指導しても、日々の生活の中でしか習慣化出来ないものです。

その習慣がなければ、「勉強をする」ために「**時間を守る**」というのは、二重の負担となります。**時間厳守**の習慣が身につけていけば、その負担の片方はなくなるので、勉強嫌いになる可能性が低くなります。今からでも遅くはありません。時間がなかなか守れないお子さんの場合は、ご家庭でのルールを見直してみてもいいでしょうか？

「気分」に左右されない子に

小学校の中学年くらいまでは勉強、勉強よりも、外で遊ばせることを意識して下さい。

例えば、友だちと「かくれんぼ」をするだけでも「あそこからはこの角度は見えない」など、空間的な感覚（育脳トライアルの点描写で鍛えている空間認知能）を自然と身につけられますし、当然友だちと遊ぶ中でコミュニケーション能力や人と合わせる、順番を守るなどの基本的な対人能力・折衝能力を身につけられます。

少しでも他の子より早く！と机に座らせ知識を詰め込むよりはよっぽど良い勉強になるのです。

小学校の高学年になれば、毎日必ず勉強することを習慣づけていきましょう。

「今日はやる気がしないから勉強しない」という子供の発言を聞き入れてはいけません。やる気があるがなかろうが、毎日勉強するという習慣を作ることが大切なのです。

気分でも勉強することを覚えると、中学生になってからが大変です。親の目が行き届かなくなって「今日はやりたくない」と、勉強しない日が出てきます。それが出始めると、

その頻度はどんどん多くなり、そのうち自発的な学習はゼロになります。

疲れていても、忙しくても毎日勉強させます。たとえ10分でも良いので「毎日勉強している」という習慣を付けることが大切です。（ただし、疲れているときなどは内容を易しめにする、量を少なくするなど調整は必要です）

毎日の生活の中で、例えばお風呂や歯磨きのようなルーティン（日課）をしないと、何となく「気持ち悪い」という感覚になります。要するに勉強もルーティンにしてしまうのです。そうすれば、勉強はしんどいことではなくなります。

これには当然ご家族の協力が必要になってきます。「しなさい、しなさい」では先述の通り逆効果！親も一緒に勉強まではいかなくとも本を読んだり、調べ物をしたりと「子供と一緒に学ぶ時間」を共有するように努めてみて下さい。

「権利」と「義務」を教える

最近の日本は全般的に「権利者意識」が強くなっています。例えば、学校で先生が叱ると「教育委員会に言いつけるぞ！」という流れになったり・・・。

社会人一年目でよく言われるのが「一人前に主張はするくせに、仕事はしない・できない」ということ。我が子をこんな大人にはしたくありませんね。

権利と義務が背中合わせであることを教えられるのは、一緒にいる時間が一番長い家族なのです。小学生の間に必ず学ばせてあげて欲しいと思います。

専門家いわく、勉強が良く出来る子は権利と義務をよく心得ているらしいです。

「不自由なく食事できるのはありがたいこと。そのかわり、食後のテーブルをきれいに拭くのはあなたの仕事ね」

などと決め、取り組ませるのは義務と権利を理解する第一歩となります。ぜひご家庭でも何か一つ我が子への「義務」を作ってみて下さい。

では、来年も頑張ってください。来年もよろしくお願い致します。

あなたはきまりを守れる人ですか？

あなたは普段から決まりやルールをしっかりと守れていますか？

もしできていなければ・・・成績を上げるのは難しいですよ？

躰が学力を大きく左右するって知っていましたか？

皆さんは勉強さえ頑張っていれば成績が上がると思っていますか？

当然勉強を頑張ることは必須なのですが、心理学者の内田先生は学力を大きく左右するのは「躰」だと仰っています。

躰とは、決められたことやルールをしっかりと守ることを意味します。字の通り、身を美しくすることなのです。それができない人は成績も良くなりませんし、人間的にも成長ができません。

口うるさく感じるかもしれませんが、親や先生はあなたのためを思って色々アドバイスをしています。

「バレへんかったらいいやん」「ちょっとくらいズルしても・・・」という気持ちに打ち勝って、せっかく頑張っている勉強を無駄にしないようにしてくださいね。



いじん めいけん
偉人の名言

子ども がくりよく しつけ き 「子供の学力は躰で決まる」

うちだ のぶこ はったつしんりがく えきすばーと
内田 伸子 ～発達心理学のエキスパート～

自分の部屋の目立つところに貼って、読み返すようにしましょう。